

報恩とポジティブな思考は…社長に求心力を生み必ず再起できる

日本の景気もどうやら少しづつ上向き傾向になってきたようですが、それは大手企業などごく一部の企業の話であります。景気感を中小零細企業の社長に話を聞くと、まだまだその実感がないという答えがほとんどの人々から返ります。

この十数年間を「雨ニモマケズ、風ニモマケズ、雪ニモ夏ノ暑サニモマケズ」：「そして病気にだけはなるまい」とひたすら辛抱してきた多くの経営者の精神面の強さには敬服するものがあります。

だが、通勤電車などが人身事故で交通ストップすると、心の中で合掌をせずにはいられない。経済的な立ち直りが出来なかつたが為に家族、親戚、友人などを巻き込んだに、精神力の限界を超えて自ら命を絶つてしまつた経営者が今でもどこかにいることを否めません。全体としては「もうひと息のが、辛抱堪え忍んできた期間のそれぞれの経営者の辛抱の仕方の違いによつて

大企業が役員会と顧問団や有識者の意見を総合的に協議した結論を会社方針として打ち出すのに対し、中小零細企業の社長は、物作りの作業、顧客の確保、資金繰り、労務管理、健康管理、家族問題、等々三面六臂どころか八面六臂をこなして行かなければなりません。殆どの経営者は自宅や個人の資産などを担保にして借入を起こしてどうにか資金繰りをしている訳ですから、そのリスクを考えると片時も緊張を解くことは出来ない立場に立たされてしまいます。

金融機関や保険会社は政府の金融支援を受け、大手企業はといえば大胆なリストラや事業所の閉鎖をしたり、取引先に対しては更に厳しく：材料費や外注費の大幅値引きを要求し応じられなければその会社とは取引をしない：などの具体的な方針実行によつて得られた結果であるからです。大手企業は、取引先から何と云われようが構わない。むしろ「三十六計、逃げるに如かず：」とばかりになりふり構わず英断することを旨として立ち直つているのは紛れもない事実です。中小零細企業の社長が再起に掛ける想いは、大企業の社長と比べて負けず劣らず凄まじい執念をもつてゐることは間違ひありません。

昨日は人の身
今日は我が身

リスク・カウンセラー &
ファイナンシャル・カウンセラー

Information & Report

2006. 03. 23 Vol. 2006-03

【ちよつと懸時記】

昨夜は横なぐりの酷い雨だったがいつものよつには大の散歩に出かけた。公園の樹々の梢にはまだ若葉が出ていないからなのか木の葉が騒ぐように音を立てて震るほどになかった。翌朝になると、再び公園に立ち寄つてみる。昨夜は草木が溜まりぬかるみだつた小道もすっかり水浸みてきれいになつていて空が透けて見える。高梢の間を小鳥たちが嬉々と飛び交っている。沢山の花を咲かせている椿の根方に、昨夜の風雨で叩き落とされた肉厚の紅い花弁が重なるように落ちていた。思わず「子蓮然の『春眠曉を覚えず、廻嘘喧鳥を聞く』」の漢詩を思い出す。花壇を彩る水仙や桜には、朝陽に照つてキラキラとしていた雪が小さく揺れていた。春ですね。(細野)



しかし、危機状態から再起をしようとするとき社長一人が孤立していったのでは、再起を果たすことなど到底無理なことだと云えます。

中小零細企業の社長は社員の一人一人と目と目を合わせて会話をすることができるなどと、社員とその家族の生活を思い遣る社長の包容力と、社員以上に率先実行する行動力と力強い信念をもつて自ら再起の道を示すことが、組織で動く大企業とは大きく異なります。再起した大手企業がしてきたことを真似ているようでは「策士、策に溺ありません。」、「無策」の何モノでもあります。

起への道を開くには…
現実を正視することが大切

●自分には「敵」はない
…と思えるように…

経営が苦しくなつた。社員に対して

「敵は我々の師でありありがたい存在です。敵と思えるような相手に出会つたら：それを忍耐や寛容を与える修行だと考えてみてください。」と語つていたのは印象的でした。

今では広く世界中の人々から信頼と崇拜を受けている法王ですが、私たちも同様に、例え辞めた社員であつたとしても「敵は我々の師であり有り難い存在」として受けとめ、自分自身を磨く貴重な切つ掛けになるようにしてみるはどうでしょう。

「恨みに報ゆるに徳を以てする」ということなのでしょうか。」

追まどりに詰められて社員が支拂え辭めない経済的に
「あんならにててやつたのに」とガラガラになつた部屋にぼんと残され
た社長は呟く。やがて風の噂となつて
「許せない」と、と辞め立した元社員の一人が独立をした。
元社員に憎しみや恨みを抱き敵対心に燃える社長もいるようですが、でも、そこの道は開けているうちは再起
すすむ。そのうです。た水がいづまでも濁つたまま
なす。濁つたままの昨日の社長は、濁つたままの元社員の立派な独立者です。
「あんならにててやつたのに」とガラガラになつた部屋にぼんと残され
た社長は呟く。やがて風の噂となつて
「許せない」と、と辞め立した元社員の一人が独立をした。
元社員に憎しみや恨みを抱き敵対心に燃える社長もいるようですが、でも、そこの道は開けているうちは再起
すすむ。そのうです。た水がいづまでも濁つたまま

A wide-angle photograph capturing a vibrant scene in a park during the cherry blossom season. The foreground is dominated by a path where many people are walking, flanked by trees whose branches are heavily laden with pink and white blossoms. To the right, a large, modern-looking building with a distinctive red roof stands prominently. Further back, several traditional Japanese torii gates are visible, adding a sense of depth and cultural context to the scene. The sky above is a clear, pale blue, suggesting a bright, sunny day.

春分の日を境に…春の暖かさを感じられるよう、街を歩くと堅く閉じていた蕾は緩み始めています。上野公園の入り口にはすでに桜が満開となっている。

「上野オペラの森」には桜祭りの提灯がお花見の雰囲気を煽っているようです。ホッと

●不動産の共有持分と親族間の争い

「何でここまでお互いに憎しみ合うのだろう…」と思う相談が立て続けにあると、相談を受けて話を聞いているだけであっても身体の奥深いところからドックドックと疲れが沸いてきて体中に広がっていくような気がしてきます。特に最近になって多くなってきたのが土地の共有持分における親族間の争いです。

不動産を残した被相続人は、子孫に財産を残し少しでもゆとりある生活が出来るようにと思っていたのか…それとも全く無策だったのか…その時の被相続人の気持ちは知るよしもないが、不動産が「共有持分」であるが為にトラブルとなっている事例が多く…それは醜い見るに堪えない親族間の争いとなっているのです。

特に被相続人が生前に無策であったとすると…遺族となった相続人が話し合いその不動産の分配割合と分配方法を決めていかなければなりません。最近の相続人の「相続権マインド」としては、法定相続人としての権利を主張することが多く、その場合は先ずは法定相続分割によって共有持分の相続登記することになります。

生前、被相続人の近くにいて親の面倒を見ていた親族であろうが…、親の面倒を放棄して遠くで好き勝手に生活していた親族であろうが…確かに法の下には平等な分配方法ではあるのですが果たしてそれでよいのでしょうか。

被相続人が自分が亡くなつて相続が発生した後に、親族間に争いが生じないようにきちんと考えてその対策を講じている場合は親族間のトラブルも少ないようです。予め不動産を処分して分配しやすいように現金化しておくとか、居宅以外の容易に売却して換価した現金を分配すればいいように不動産を整理している場合は殆どトラブルが起きていません。

●人格をも変えてしまう共有持分の不動産

共有持分の土地の上に、複数の建物が存在するときの争いはどうにも收拾が付かない状態のまま、驚くことに10年間以上も親族間のトラブルが続いているケースさえあるのです。

両親がまだ元気であった頃、4人の子供達が結婚をする度に土地の一部に建物を建て、親の建てた建物の他に4棟の建物が建てられました。長男夫婦は両親の建てた家に同居し、やがて親が亡くなり相続が発生した。敷地内の建物に併せて分筆するとなると道路から玄関までの通路が間口狭小で再建築不可の画地が出来てしまうことになるので、そのまま法定相続の登記をして共有持分となつたのだそうだ。

そうしたのは昭和の時代のようすいぶん昔のようでした。それから20年経過し、それぞれの家族の家庭内事情もさることながら、子供達の仲もあることを切っ掛けとして変わってきたそうです。仲のいい兄弟や険悪な関係の姉妹がでてくると、その建物には賃貸で他人を住ませ自分たちは郊外へ引っ越してしまつたり、相続発生前

リスク・カウンセラー奮闘記・22

とはその状況も大きく異なつてしまつたのです。

建物が老朽化したので立替をしたいと考えている家族や、建物を売却して現金を元に新規に事業をスタートさせたい家族やらで、無計画に建物を建てた土地の権利に対する考え方は区々になつてしまつました。

全部の土地を一括して売却するにしても、親族間の調整が付かなくなつてしまつたのです。両親としては、まさかこんな事でも争いにまでなるとは考えてもいなかつことでしょう。親が元気で、親としての威光があるときは子供達も仲が良かったのでしょうが、狂気さえ感じるほど取り乱している家族がいたりすると裁判で決着しない限り收拾が付かないと思うほどです。

●心が疲れたときは…月を仰ぐ

あっちの家族…こっちの家族…と繰り返し繰り返し親族間の争いを聴いていると、胸が締め付けられるように苦しい感覚が込み上げてくることがあります。頭の芯が痺れるような…締め付けられるような…辛く悲しくなつてしまふことがあります。

リスク・カウンセラーだけの対応ではとても解決できないこともあります。時間を掛けて解決に当たりますが…時には精神科の医師をご紹介し、心の調整をしていただいたらうえで再度話し合いを進める場合もあります。自分でも気がつくとヘロヘロになっていることがあります。

でも、リスク・カウンセラーは挫けて放り出してはならないと自分に言い聞かせ、毎日のように月を仰ぐことにしています。欠かさず夜の散歩に出るのは…月のエネルギーを浴びに行くため…と云つても過言ではありません。月と会話したい…でも…時間が合わないと新月の頃に月と出会えないこともあります、空が曇っているときでも必ず空を仰いで月を探します。月には不思議な力を与えてもらえるように感じているからなのです。「真如の月」だと「心の月」などといいますが、どんな形の月であつても私の疲れきった心が洗われるのです。争っている人たちにも是非見て欲しいといつもいつも思っているのですが…。「月影のいたらぬ里はなけれども眺むる人の心にぞすむ」という歌がありますが、何処にいても…、誰にでも…見ることができる月は、これからも私の大きな支えとなってくれることだと信じています。



夕陽がビル陰に隠れる時間と位置が日ごとに移り春分の日の5時半は地下鉄・後楽園駅よりも更に西に移動します。夕陽を眺めていると春を感じます。事務所の机の上にも花瓶に花を生けて、小さな春を呼んでみました。

R.F.C Information & Report・第027号 2006.03.23 No.2006-03

◇発行者 株式会社ホロニックス総研 〒113-0033 東京都文京区本郷1-35-12 かんだビル7階

◇責任者 代表取締役・リスクカウンセラー 細野孟士 (t-hosono@holonics.gr.jp)

◇連絡先 Phone(03)5684-0021 Fax.(03)5684-0031

<http://www.holonics.gr.jp>

【ホロニックス】(英: Holonics) 全体(ホロス)と個(オン)の合成語。すなはち組織と個人が機的に結びつき全体も個人も生かすような形態を言う。生物は個々の組織が自動的に活動すると同時に独自の機能を發揮する一方で、その個が調和して全体を構成する(小学館「カタカナ語の事典」より)